1. 評価結果概要表

ひなたぼっこ･不動院

作成日　平成19年6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103270
法人名	株式会社　ひょうま
事業所名	グループホーム　ひなたぼっこ･不動院
所在地 (電話番号)	広島市東区牛田新町三丁目5－21 (電　話) 082-511-3281

評価機関名	広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6－29		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】(　19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　3 人, 非常勤　7 人, 常勤換算　5.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000　円		その他の経費(月額)	20,000　円
敷　金	有(　円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(　円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	370　円	昼食	550　円
	夕食	550　円	おやつ	0　円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(　5月1日現在)

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		4　名	要介護2	3　名	
要介護3		1　名	要介護4	1　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	80.8 歳	最低	70 歳	最高　95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋山クリニック、松本歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元社員寮である当施設は住宅地の小高い所にあり、閑静な環境である。職員の異動関係などは少なく、入居者との関係は安定している。すぐ隣には神社があり、散歩には困らない快適に過ごせる環境の中で、常に地域に溶け込む努力をしており、このまま更に地元に馴染んだ施設になればと思います。また、職員は理念を日頃の指針として共有しながら利用者への「尊厳の保持」の普遍化に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査でも話し合われているが、玄関の終日施錠が利用者の安全確保の為に止むをえず行われている。1ユニットのため、人員配置的に難しい部分はあるとは思うが、動線やレイアウトの改善、あるいはモニターやセンサーの検討で、短時間でも施錠しない工夫を試していただきたい。また、万一の離設対策としては、入居者の顔を地域の人によく知っていただく事や、顔や服装の写真を定期的に撮って備えておくことも一法かと思います。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職場全体で評価に取り組み改善点を明確にし、勉強会等でケアの向上を促すように取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に開催されているが、討議内容や出席者の選定に困ることもある様子であるが、むしろ反面施設の悩みをどんどん提示して、一緒に解決していくような方向に持っていかれれば良いかと思う。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映(関連項目:外部7, 8) 常日頃からご家族には、ホーム便りや訪問時、家族会等で問いかけ、何でも言ってもられるような雰囲気づくりに留意し、出された意見、要望等は話し合い、反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域にはそれなりに溶け込んでいるような感じたが、地域や近所の専門学校などにはもっと継続的にボランティアの依頼をするなどして出来るだけよい関係作りに努めていただきたい。

2. 評価結果(詳細)

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念はホーム内の廊下に掲示し、管理者･職員は毎日の介護に生かすように努力がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の方々が、自立した暮らしが営めるようにサポートし、共につくる温かな家となるように管理者と職員が日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や買い物などを通して顔馴染みをつくりながら、また地域の避難訓練やもちつきなどに参加するなどして少しずつ地元の人と交流するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を管理者、職員間で話し合いながら改善すべき点は努力し取り組んでいる。	○	今後共自己評価及び外部評価については、職場全体で評価に取り組み改善点を明確にし、具体的な改善に向けた契機とされることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への出席者が少ないようではあるが、地道に地域の一員としての努力はされている。また、会議の内容は家族に報告し意見などをいただいてサービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。	○	会議への参加者への呼びかけの手法を検討されることが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの責任者は、市町村担当者にグループホームと地域との係り方等について相談したりするなどして、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の個々の状況に応じて家族に報告を行っており、意見、希望等を聞く体制が出来ている。また、保証人以外の家族にも希望があれば「たより」を差し上げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の意見･苦情等を聞き、何でも話し合える雰囲気づくりが心掛けられており、年に一度家族会を開き意見交換しながら運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間での異動は今のところなく、入居者との関係は安定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修は本社の研修制度を取り入れて行っている。日常の業務内での情報交換や研修は社内研修を受ける機会があり、希望が有れば様々な研修を受ける機会は確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、グループホーム交流会に参加をしてネットワーク作りに努めるとともに、他事業所の行事などにも参加をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時前には、ホームや他の利用者の雰囲気などを本人や家族に説明を行い、暮らしに慣れて頂く配慮がされている。また、入居時には馴染みのものを持ち込んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事は職員全員と利用者とが一緒に作った料理を食べている。また、利用者の楽しみ事を見つけ、暮らしの中で一緒に家事や作業をしたり共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、利用者の希望や意向を会話や表情から把握するように努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常のケアのあり方について本人、家族からの意見を反映し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて介護認定の変更･プランの変更などの介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医･提携医への受診や看護師の派遣も行われ、利用者･家族の希望に応じて適切に医療を受けられる支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあつたら良いのか、事業所が対応しうる支援方法を踏まえて、方針をチームで話しあわれることが望まれる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの方の尊厳を守り、言葉遣いや態度に気をつける配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ一人ひとりの心に寄り添った生活を支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの食堂は、調理場との行き来も容易で、準備や片付けは職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持を大切に進めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は何時でも入浴可能で、本人の希望に沿った対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	隣りの神社の境内の掃除をしたり、敷地内に畑･花壇の世話をする等、日々の役割や様々な楽しみ事を、職員と共に行い、喜びのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者により外出の頻度は様々ではあるが、最低週1度は出掛けるようにしている。また、玄関の入口にベンチを置くなどして外出の支援を工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は外出志向の利用者が居られるために、種々検討や試行錯誤を行い現時点では止む終えず施錠されているが、今後も鍵をかけないケアの実践を全ての職員が認識し、心掛けるよう努力されている。	○	施錠しないためのいろいろな苦労は伺えるが、今後共諦めずに更なる工夫を期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけの訓練だけではなく、町内の避難訓練に参加するなどして地域の人々の協力が得られるよう関わりを深めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は小規模であるが整えられ、明るく、利用者がゆったりとくつろいでいる光景であった。また、テーブルには周辺に合った花を飾るなどして、季節感や雰囲気を作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階はフローリング、二階は畳の間になっており、読書好きの方は本を置かれたり、それぞれ自分用に合わせて使用の仕方、部屋づくりをされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名　　グループホーム　ひなたぼっこ・不動院

事業所住所　　広島市東区牛田新町3-5-21

記入年月日　　２００７年　5月　１７日

記入者　　職　ホーム長　　氏名　　沼津　一徳

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中でという事に重点をおいていないが安らかにその人らしくという事を理念の柱としている。		独自の理念を廊下に掲示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日のケアについて日常的に職員間で話合っておりそれが結果的に理念の実践となっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には入居時に理念を説明しているが地域に理念を理解してもらうような取り組みは行っていない。		
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に道で会い挨拶していく事で事業所や入居者の存在を知ってもらえるようにはなってきたが、気軽に立ち寄ってもらえるまでには到っていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	町内の避難訓練、もちつき等の行事には積極的に参加するようにしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	地域への貢献はできていない。		
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義はサービスの質の向上と理解しており、ひとつずつ改善する時に活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業内容、サービスについての報告はおこなっているが具体的にサービス向上に活かされるような話し合いはできていない。		
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	できていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	行っていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	改めて学ぶ機会はもうけていない。日常のケアについて話し合う中でお互いに反省に努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとり丁寧に説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	普段から意見、不満等に耳を傾け、様子や表情から思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心がけている。		職員に言いにくい事柄を家族に伝えいい形でそれをホームに伝えてもらえるような関係作り。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月個人ごとにたよりを作成し家族に配布している。必要時には電話連絡をおこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	苦情受付担当者名の公表や外部へ言ってもいい事を書面で出している。また普段から家族の意見を把握するよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	月１回の職員会議、毎日の申し送りの中の打ち合わせで意見を言い合い反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要なときに職員が確保できるように努力はしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者、家族との信頼関係が重要と考えており離職がやむを得ない場合もその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	研修の必要性は認識しているが研修に積極的に参加できる様な環境作りができていない。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム交流会に参加しネットワーク作りに努めている。他事業者の行事に参加するなど交流も行い刺激を受けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個別に話を聞いたりしているが十分とは言えない。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員一人一人の特徴、個性に合わせた役割分担を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	事前に面談を行い、状態把握に努め、必要であれば体験入居を行い、不安の軽減を図っている。また、普段の生活のケアから『聞く』事を心がけている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	家族の要望を把握することに努めホームとしてどのような対応ができるか説明するようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の状態、状況の把握に努め必要なサービスにつなげられるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族に見学して頂く事から始め、求められれば体験入居も行えるようにしている。また、家族が可能なら面会も積極的にお願いしている。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	入居者の不安、苦しみを知ることに努め、こだわり等も受容し理解できよう努めている。また、入居者から教わることも沢山ある事を職員は実感している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	これまでの家族の苦労を理解したうえで共に本人を支えていく気持ちを確認するようにしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が参加できる行事を増やし、より良い関係が築けるように努めている。また、入居者本人がホームで穏やかに暮らせることが家族との関係支援につながると考え、本人のケアを主眼としている。		関係理解に引き続き努めたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	家族の協力や本人の体力、複雑な事情等で実現が難しいことが多い。しかし、手紙、電話、外出、ホームへの来訪等可能な範囲は努めている。		要望される事柄の把握に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	入居者同士の関係性について情報を職員全員が共有できるようにし、職員が調整役となって円滑な関係ができるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後にも職員が面会に行ったり、手紙を出したりしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	意思疎通ができる、困難に関わらず日々の関わりや言動から本人の意向を把握するように努め職員全体で話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後に関わらず本人、家族から情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の生活リズムの把握に努めそのリズムに沿った生活が送れるようにしている。また、持っている能力を把握する為、いろいろトライしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族との日々の関わりにより意見、要望を聞き、反映させている。職員全員で意見交換も行っている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	半年で評価しないよう継続の場合，1 年後に見直し作成している。状態変化に際しては随時、介護計画の変更をし、都度職員全員及び関係者の意見を聞いている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、言動を個々の記録に残している。申し送り等で情報の共有を図っている。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や個別の外出を行っている。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行っていない。	○	民生委員やボランティアに働きかけ地域との交流を図っていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者の状態に応じて訪問歯科診療を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には参加してもらっているがまだ協力関係を築くまでに到っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族が希望する医師、病院を受診できるようになっている。また、通院に関しても家族が困難な場合には職員が行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しく日常的に相談ができる医療機関はない。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に１度は看護職がホームに来ることになっており、その際に相談、助言をもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	入居時には本人への支援方法に関する情報を提供し、医師とも話し合い早期退院に向けアプローチしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	これまでのケースではまだ『早い段階での』話し合いで方針を共有する事には到っていない。		提携医ともっと密接な関係を築き改善していけたらと思う。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ケースに応じてその都度関係者間で検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	必要な情報提供を行っている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	状況に応じた声かけや対応を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者に合わせた声かけや働きかけを行い、本人の気分、体調に合わせ無理強いしたりしないよう本人の意思を尊重している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが一人一人のペース、体調、気分に合わせた生活を送ってもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本的に本人が衣服を決めて着ており、自己決定しにくい入居者には職員がコーディネートして着てもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	調理、盛り付け、片付け等は入居者と一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルで食事をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に嗜好品を楽しむ状況はできていないが可能な範囲内で個別に対応している。		個別に検討し、さらに取り入れられる事は取り入れていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンの把握に努め、その人のパターンに合わせた声かけや誘導のタイミングを図って支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外はお風呂を沸かし，本人の希望に添って入浴してもらっているが入浴できる時間は決まっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日々の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、各人の様子をみてリビングや居室で休めるように支援している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	食事作り、盛り付け、洗濯物たたみ等できることはやって頂き，感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、作業としては成立しない方もいるがその方独自の存在感が果たす役割もあると思う。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	家族の理解が得られた入居者に関しては、なくなっても差し支えのない範囲内で自己管理してもらっているが特別な支援はしていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物は日常的に出かけ天気や入居者の状態に応じてドライブなども行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	職員の勤務を調整し、できる限り本人の希望に添えるように努めている。場合によっては家族に協力して頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状は出している。電話はこちらから用事がありかけた際や家族からかかってきた際に本人とも話してもらうようにしている。	○	日常的に手紙を出したり、電話をしたりする機会を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間等定めずいつでも気軽に訪問していただけるよう話している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り等でケアを振り返り自覚していない身体拘束が行われていないか確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	家族の同意を得て玄関に施錠させてもらっている。『1度外に出れば』『理由があって外出する』と言う方には見守り可能かもしれないが、常に外に外に行こうとする方に対しての対応が他に見つからない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	職員は入居者と同じ空間で過ごしており夜間も２時間毎に巡回を行ない、２階の様子が１階にいても分かるようにモニター設置している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて管理行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が起きた際は事故発生報告書を作成し、事故原因と今後の予防方法について検討している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	消防署の協力を得て、救急法の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。	○	職員全員が自信を持てるように実践的な訓練や対応の流れを見直してスムースにできるようにしていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年 2 回、避難訓練を実施している。夜間想定の避難訓練も実施しているが近所の方への働きかけは積極的には行なっていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	随時家族と話し合うようにしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	様子、顔色等の異変時は出勤職員で話し合い必要な際はできるだけ速やかに医療機関を受診するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を個人の記録に保管し職員全員が把握できるようにしている。処方に変化があった際は申し送り等で全員に伝わるようにしている。	○	職員の薬に対する理解を深めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘のひどい入居者には寒天を食べてもらったり、運動を促したりと下剤に頼らないように心がけている。	○	食事や運動による便秘の予防。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人に応じた歯磨きを支援しているが十分とは言えない。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	トロミ付け、カロリー制限、食事量など入居者の状態、持病、好みに応じて対応している。また、毎食の摂取状況は記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	過去に勉強会１度実施。インフルエンザやノロウィルスは予防接種や日頃の消毒で対応。	○	万が一感染した際の入院先や自宅への避難等どうするかが課題。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきん等は毎晩漂白し，食材には購入日を記入し古いものから使うように努めている。		
2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にプランター等設置し，明るい雰囲気作りに努めているが以前からあるブロック塀や鉄柱等が暗い印象を与える。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テーブルにホーム周辺で取れた花を飾るなど季節感を感じられるように努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にベンチ、リビングにソファを設置しているが一人一人が各自で居場所を作っているかは疑問。	○	リビングから離れたところでもさりげなく目が届き本人も安心して過ごせる空間を作りたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が以前使っていた物を持ってきていただけるよう家族にお願いしているが実際はあまり持ち込まれていない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者の容貌、様子をみながら随時、換気、温度調節を行なっている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫はされていないが適度に不便なところがあって、かえって身体機能を維持するのに役に立っているのではないかと思う。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	できることはやって頂き、できないところはさりげなく補い入居者の自尊心を高めるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ホームの裏に畑を作ったが入居者自身が外で作業する事は少ない。	○	日常的に外で活動できるようにしていきたい。